

東海道五拾三次之内(保永堂版) 藤枝(部分)
歌川広重/天保3-4年(1832-33)/本館蔵

東海道名所風景 藤沢(部分)
歌川芳形/文久3年(1863)
豊橋市美術館蔵

馬と人の ものがたり

東海道五拾三次之内
(保永堂版) 宮(部分)
歌川広重/天保3-4年(1832-34)
本館蔵

五十三次(人物東海道) 池鯉鮒(部分)
歌川広重/嘉永5年(1852)/本館蔵

2025
10.11_土 → 11.16_日

開館時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)
休館日 毎週月曜日(10月13日・11月3日は開館、翌日休館)
入館料 一般400円(320円)・小中高生100円(80円)・
市内在住の70歳以上100円(80円)

- ・()内は30名以上の団体料金および前売り料金、市内在住の70歳以上は団体のみ。
- ・前売券は購入した翌日から使用でき、当館のほか豊橋市美術館、市役所じょうほうひろばで販売しています。
- ・市内在住の70歳以上の方は身分証明書をご提示ください。
- ・株の国と子どもパスポートをお持ちの小中学生は無料です。
- ・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料です(マイリDIDが使用できます)。

豊橋市二川宿本陣資料館

豊橋市二川町字中町65 TEL.0532-41-8580

馬と人の ものがたり

馬と日本人の付き合いは古く、馬越長火塚古墳群（国史跡）など

市内の古墳から馬具が出土していることから、

この地域の人々も6世紀末頃には馬とのかかわりをもっていました。

豊橋市教育委員会では、「吉田神社の馬具」を

令和6年5月29日付で市の有形文化財に指定しました。

このほかにも、市内には大岩寺の「絵馬」（市指定）など

馬にまつわる資料が数多くあります。

江戸時代においての馬は、大名の参勤交代や

公用の輸送を支える「伝馬」として

役割を大きく果たしました。

また、商品などの荷物や

人の輸送においては、馬借や

馬子といった人々が「駄馬」と

ともに搬送の役割を果たし、

庶民の生活にも深くかかわりました。

これは、街道の風景を描いた浮世絵から

垣間見ることが出来ます。

このように、あらゆる人々があらゆる場面で

馬に接し共に暮らしていた日常は

昭和のある時期まで続きました。

今回は、江戸時代を中心に馬にまつわる資料を

展示することで、馬と人とのつながりを紹介します。



東海道五十三次之内（行書版）石部（部分）／歌川広重／天保年間後期／本館蔵



東海道五十三次之内（行書版）戸塚（部分）／歌川広重／天保年間後期／本館蔵



黒漆塗三ツ馬紋金唐草時絵海有水干鞍／寛文11年（1671）／吉田神社蔵



記念講演会
「街道の馬と祭」
10月25日〔土〕14:00-15:30
講 師 | 長塚 孝さん（馬の博物館 学芸員）
会 場 | 当館講義室
定 員 | 50名（無料、申込み順、要入館料）
申込み | 電話で二川宿本陣資料館まで
10月4日（土）10時より受付

ギャラリートーク
10月11日〔土〕・26日〔日〕14:00
会 場 | 当館企画展示室

東海道名所風景 加茂の競馬／河鍋曉斎／文久3年（1863）
豊橋市美術博物館蔵

二川宿本陣まつり 「大名行列」

11月2日〔日〕13:00-15:00

吉田藩主 松平伊豆守信明の行列をモデルに、一般公募で選ばれた「雅姫」と「琴姫」、地元小学生による手踊り、奴踊りなど加えた大名行列が旧東海道を練り歩きます。また、和太鼓演奏や地元中学生の企画イベントなど様々な催しも開催します。



豊橋市二川宿本陣資料館

441-3155 豊橋市二川町字中町65
TEL.0532-41-8580 FAX.0532-41-8940
<https://futagawa-honjin.jp>

二川本陣 検索

